

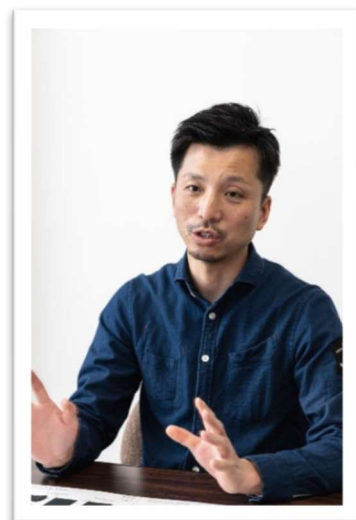
## ■ 講師

## 川北 康伸（かわきた やすのぶ）

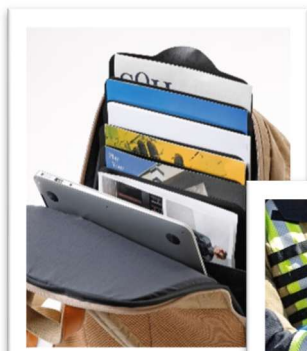
株式会社ダイコープロダクト 代表取締役社長

## 【略歴】

昭和46年	さぬき市出身
平成7年	日本大学商学部経営学科卒業
同 年	株式会社バツ（アパレル）入社
平成11年	有限会社大香（現 株式会社ダイコープロダクト）入社
平成23年	公益社団法人東かがわ青年会議所理事長（任期1年）
平成28年	株式会社ダイコープロダクト 代表取締役社長 就任
令和5年	日本手袋工業組合副理事長 就任



## 【紹介】



1963年手袋製造業として発足。2023年に創業60年を迎える。  
現在は手袋・袋物類の二刀流縫製工場。国内生産比率は約50%ということで、従業員30人以上の規模の中では比較的国内生産比率が高い。

手袋は特殊作業用、スポーツ・アウトドア用、ファッションの3つのジャンルを手掛けており、年中手袋を製造している。バッグはナイロンやポリエステルといった化繊やソフトレザーを使用したカジュアルテイストのファッションバッグを中心に、防災バッグや業務用のバッグ・ケースを手掛ける。

自社ブランドにも力を注いでおり、消防向けの手袋やベルトなどを展開するBULLRESCUE、特殊作業用手袋のDK. WORKS、メンズカジュアルファッション手袋のSoH、スライド機能を付与したバッグのstairs design productsといった個性あふれるブランドを展開している。

## ■ 講義概要

## 「ものづくり企業」の希望と課題

弊社は創業以来60年間ものづくりに従事してきた会社で、弊社が製造するのは手袋やバッグといった最終消費財、すなわち製造されたものは直接消費者の手に届けられるもの。

消費者＝人間の欲望には限りがなく、時代とともに変化するものであり、そうした欲望の少し先を想像しながら生み出された、消費者にとって価値ある商品というモノが売れる商品ではないか。価値ある最終消費財を生み出すことさえできれば、形にすることは専門分野なので、後はどう流通させるのかを考えれば様々な成長戦略を描くことができるので、今後さらに希望は膨らむ。

一方、いいアイデアがあっても形にするためには人の力が必要である。特に手袋やバッグといった縫製品は機械化しづらい製品ということもあり、近年では生産拠点を100%海外に移す会社も少なくない中で、MADE IN JAPANを求める声は無くなってはいない。となると日本の中で製造に従事する人を今後どれだけ確保できるのかが最大の課題である。

モノづくり企業としての当社の希望を解説し、業界が抱える共通課題を知っていただきながら、いかにして今後成長していくのか、皆様と共に考える機会にしたい。

